

2020年春現代に甦る

『渋沢栄一アンドロイド』を制作します



2024年に刷新される新1万円札の肖像決定、また、大河ドラマの主人公にも決定し、渋沢栄一翁への関心はますます高まっています。そこで、市では、栄一翁の功績や考えを広く多くのかたに知ってもらう新たな手段として、『渋沢栄一アンドロイド（人間酷似型ロボット）』を2体制作します。

制作にあたっては、株式会社ドールコーヒー名誉会長で深谷市親善大使でもある鳥羽博道氏から、渋沢栄一翁の顕彰を目的に寄附金をいただき、鳥羽氏の意向を踏まえ、これを財源に制作します。

また、アンドロイド制作の技術面については、アンドロイド研究の第一人者である大阪大学の石黒浩教授に技術指導をしていただきます。

『アンドロイド』とは？

『アンドロイド』とは外観も含めて「人間と見分けがつかないほど精巧に作られた」人間と非常に似た姿のロボットのことで、人間の姿を忠実に再現し、まるで生きていくかのような、目、口、表情、手などの緻密な動きや再現した声で話すことができます。

ロボット』のことで、人間の姿形を連想できるロボットのことを指しています。

『アンドロイド』はさらに人間に酷似した外観を持つヒューマノイドのことで、実在の人物とそっくりに作られ、本人と双子（ジェミニ）のような『ジェミノイド』と、架空の人物やキャラクターを具現化した『アルスマキナ』の2種類に分けられます。

今回、制作する『渋沢栄一アンドロイド』は、実在した『渋沢栄一』をモデルとしているため、『ジェミノイド』となります。

よく耳にする『ロボット』は、人や動物の代わりに作業を行う機械および人や動物の形をした機械の総称で、工場で自動車などを製造している産業用ロボットなどがある有名です。

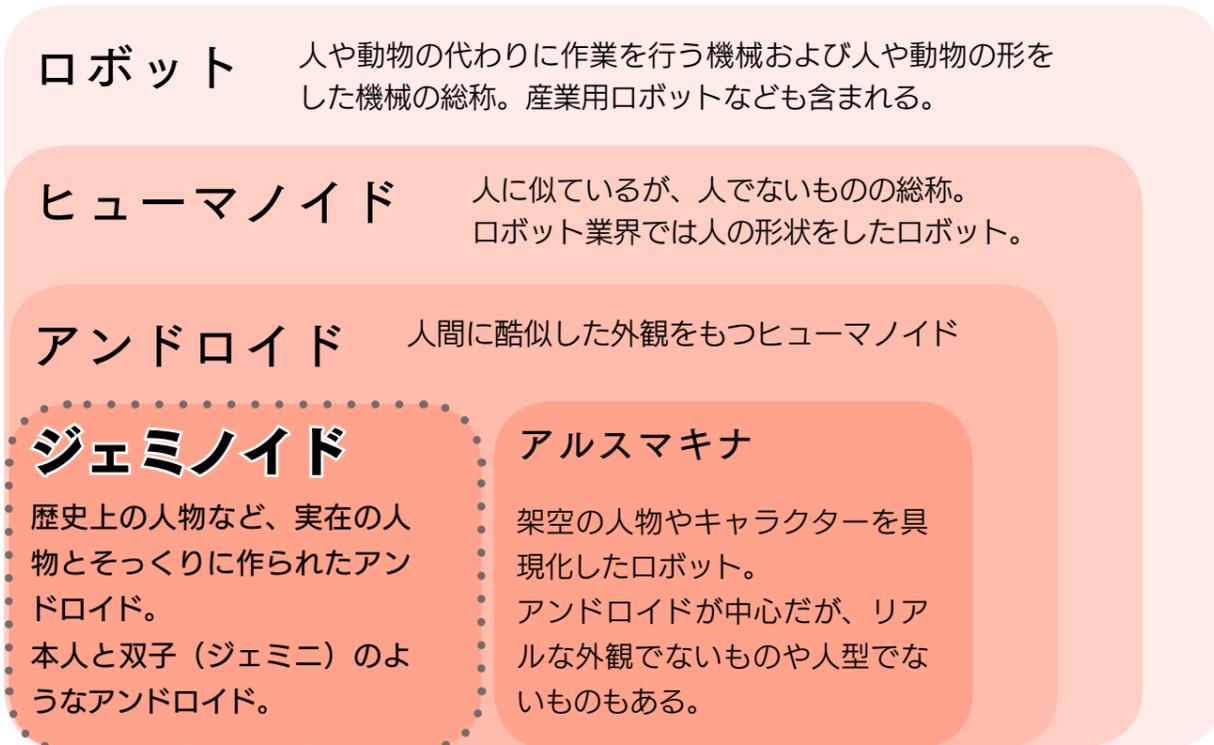
『ヒューマノイド』は「人間型

ロボットからアンドロイドまでの関係を図で表したものの。今回制作するのは、アンドロイドのうち『ジェミノイド』です。



▲二松学舎大学特別教授『夏目漱石』(漱石アンドロイド)
©2019 学校法人二松学舎

アンドロイド関連図



『渋沢栄一アンドロイド』の特徴・設置場所

『公』と『私』、
栄一の2つの顔を再現

・『公人』としての栄一

2体制作する『渋沢栄一アンドロイド』のうち、渋沢栄一記念館に設置する1体は、栄一が70歳頃にさまざまな場所で講演をしていた様子をイメージし、新1万円札の写真の肖像にも近い、洋装で立位（立った状態）のアンドロイドを制作します。

『公人としての栄一』を想定し、渋沢栄一記念館の一室を講義室のような空間として改装して設置し、栄一が大事にしていた『論語と算盤』の考え方や『忠恕』の精神などについて講義を受けているような場を作り出します。

・『私人』としての栄一

旧渋沢邸『中の家』に設置する2体目は、栄一が80歳頃の姿をイ

メージし、座位（座った状態）のアンドロイドとなります。

『私人としての栄一』を想定し、栄一が深谷に帰郷した際に立ち寄り、寝泊まりをした『中の家』で座敷に座り、和装でくつろいでいる雰囲気再現します。

設置時期とその後の活用

1体目のアンドロイドは、渋沢栄一記念館を改装した後、来年の

4月ごろの設置を予定しています。また、2体目は『中の家』の主屋の構造補強工事と改修工事が終了した後の令和4年春ごろの設置を予定しています。

設置後は、市内観光の目玉としてだけでなく、県内外の児童・生徒の社会科見学などにも積極的に活用し、栄一の生誕地「深谷」から栄一の大事にしていた精神を全国に発信していきます。



▲1体目のアンドロイドを設置する『渋沢栄一記念館』（下手計1204）



▲2体目のアンドロイドを設置する旧渋沢邸『中の家』（血洗島247-1）

「アンドロイドで渋沢栄一存在をよりリアルに感じる」

今回、技術指導として関わられることは、大変光栄です。栄一翁がアンドロイドとして甦ることで、子どもから大人、特にビジネスマンなどいろいろな人に影響を与えていると考えています。

栄一翁の書いた本は、今でも読むことができますが、本物そっくりのアンドロイドから言葉を聞くことで、存在をよりリアルに感じ、言葉の本当の意味を理解することにつながるでしょう。



大阪大学大学院基礎工学研究学科学科
石黒浩教授

『渋沢栄一アンドロイド制作発表会』を開催

10月3日に市役所本庁舎にて、報道機関を対象に『渋沢栄一アンドロイド制作発表会』を行いました。

当日は、寄附者である鳥羽博道氏、アンドロイド制作の技術指導をしていただく大阪大学の石黒浩教授、アンドロイド制作会社である㈱エーラボの三田武志代表取締役、そして二松学舎大学の夏目漱石（漱石アンドロイド）特別教授が参加して制作発表会を行いました。漱石アンドロイドは、『渋沢栄一アンドロイド』と同じく、石黒教授が技術指導し、㈱エーラボが制作したことで渋沢栄一が二松学舎大学とゆかりがあることから参加しました。



▲記者会見当日の様子

二松学舎大学と渋沢栄一

二松学舎大学は三島中洲が創設した大学。創設者の三島と渋沢栄一は個人的に親しい仲で、栄一の著書『論語と算盤』の冒頭では、学者（三島）と経済人（渋沢）、それぞれの立場から『論語』と『算盤』について話した様子も出てきます。三島が亡くなる寸前に、「二松学舎を頼む」と託したことから栄一は1919年に二松学舎の舎長（理事長）に就任しました。

二松学舎大学特別教授夏目漱石（漱石アンドロイド）

二松学舎創立140周年を記念して、2016年に石黒教授の監修のもとアンドロイドとして復活。現在は大学や附属の中学・高校で朗読講義などを行っています。

寄附者である鳥羽氏の『思い』

（『渋沢栄一アンドロイド制作発表会』での発言より）

「アンドロイドをきっかけに、栄一翁の功績をさらに多くの人に知ってもらおう」

深谷では、栄一翁のことを『郷土の偉人』と言っていますが、私は常々『郷土の偉人』というだけでなく、『日本の偉人』だと考えていました。

栄一翁は明治以降の日本の発展に大きく関わり、その貢献は計り知れません。そんな栄一翁の功績をより多くの人に知ってもらうために、本物そっくりの『アンドロイド』を明治時代の雰囲気のまま、まさに目の前に当時の栄一翁がいるがごとく、『論語と算盤』などの話をするので、さらに多くの人々が栄一翁の功績を知るきっかけになればと考えています。

そして、『渋沢栄一記念館』と旧渋沢邸『中の家』の新たな目玉となり、私の地元でもある深谷が盛り上がるのではないかと考えています。

鳥羽博道

深谷市出身。深谷商業高校を中退後、上京し飲食業界へ。1962年ドールコーヒーを設立。2005年に代表取締役会長に就任し、2006年に名誉会長に就任。深谷市親善大使も務める。



株式会社ドールコーヒー
鳥羽博道名誉会長